



■令和元年度IT支援者養成研修（出張型）コース一覧 **（申込方法は頁の一番下をご覧ください）**（この講座は終了しました）



### （1）コミュニケーションを支える

概要	コミュニケーション障害をカバーする会話補助を中心とした支援技術（意思伝達装置を除く）
カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションに困難を抱える障害について</li> <li>・コミュニケーションを助ける支援技術のデモと演習（専用機、汎用機、周辺機器の活用例、スマートフォン・タブレットの実機体験）</li> <li>・事例とポイント</li> </ul>
コースの活用	<p>聴覚障害、発達障害、言語障害等によりコミュニケーションが困難になっている方の支援を、道具を通して考えるコース。</p> <p>文字盤、絵文字での会話や、音声認識、筆談など多様なコミュニケーション方法を体験し、教育や就労の現場で活かせる事例を知る。</p>
主に対象となる障害	聴覚障害、発達障害、言語障害 等

### （2）意思伝達を支えるコース

概要	意思の表出が困難な障害をカバーする意思伝達を中心とした支援技術
カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意思伝達に困難を抱える障害について</li> <li>・意思伝達を助ける支援技術のデモと演習（専用機、汎用機、周辺機器の活用例、スマートフォン・タブレットの実機体験）</li> <li>・事例とポイント</li> </ul>
コースの活用	<p>脳血管障害の後遺症やALSの方々、意思伝達が困難になっている方の支援を、道具を通して考えるコース。</p> <p>スイッチ押下による文字やシンボル選択の他、利用者が増えつつある視線入力など新しい技術を体験し、補装具等制度利用の現状を知る。</p> <p>自宅あるいは病院等で、生活のステップを支えていく際の資料ともなる。</p>
主に対象となる障害	ALS、脳血管障害の後遺症等で、意思伝達、意思表出が難しい方

### （3）操作困難を支える

概要	情報利用における物理的な操作困難をカバーする支援技術
カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報利用において操作困難をかかる障害について</li> <li>・操作困難を助ける支援技術のデモと演習</li> </ul>

	(専用機、汎用機、周辺機器の活用例、スマートフォン・タブレットの実機体験) ・事例とポイント
コースの活用	肢体不自由の方の困難さをケース別に考え、道具を通して支援技術を考えるコース。Windowsやスマートフォン・タブレットが基本機能として持っているアクセシビリティを学び、操作特性を実機体験で理解する。 就労支援の現場への情報提供にも。
主に対象となる障害	上肢障害(肢体不自由)

#### (4)見えない、見えづらいを支える

概要	情報利用における視覚的な困難をカバーする支援技術
カリキュラム	・視覚の障害について ・弱視、あるいは全盲の方の操作を助ける支援技術のデモと演習 (専用機、汎用機、周辺機器の活用例、スマートフォン・タブレットの実機体験) ・事例とポイント
コースの活用	弱視や全盲の方の情報利用の困難さを実機体験を通して理解し、支援を考えるコース。 Windowsやスマートフォン・タブレットが基本機能として持っているアクセシビリティや、専用ソフト等を学ぶ。
主に対象となる障害	視覚障害(全盲、弱視)

#### (5)理解、認知、記憶を支える

概要	障害や疾病により、理解や認知、記憶等の困難をカバーする支援技術
カリキュラム	・理解、認知、記憶等に困難をかかえる障害について ・様々な支援技術のデモと演習 (専用機、汎用機、周辺機器の活用例、スマートフォン・タブレットの実機体験) ・事例とポイント
コースの活用	最新のテクノロジーだけでなく、アナログな道具も見直し、記憶や認知などの個別の困難さの解決を考えるコース。 活用事例を知り、地域で難しさをかかえる方への情報提供に。また、教育や就労の場の力の引きあげを考える
主に対象となる障害	発達障害、高次脳機能障害、知的障害、失語症等

#### ▼講習実施の目的

障害者のIT支援関係を担当する区市町村職員、障害者福祉センター、障害者就労支援センター等の地域支援者などを対象に、障害者IT支援のための研修を開催し、区市町村における障害者のIT利活用のための基盤を整備する。

#### ○研修開催日時、場所

##### (1)開催日

《第1期》令和元年10月15日～令和元年12月20日

《第2期》令和2年1月15日～令和2年3月19日

火曜日又は金曜日(祝日、年末年始は除く)のうち、受講を希望する区市町村が指定する日

##### (2)時間

原則として、14時から16時半まで(事情によっては相談のうえ両者で調整)

##### (3)場所

原則として、受講を希望する区市町村が指定する会場

## ○対象と受講人数

- (1)障害者のIT支援関係を担当する東京都内の区市町村の職員
- (2)障害者のIT支援関係を担当する東京都内の地域支援者等  
(障害者福祉センター、障害者就労支援センター、福祉施設等の職員等)

5つのコースから、希望するコースを選択。定員は1区市町村10名程度。

## ○特徴

- ★タブレットやスマートフォンなど身近な機器で実現できる技術を中心に、実機体験を含め現場対応力を高める。
- ★全てのコースに資料(書性、WEB等)や都内のリソース(企業、支援団体、機関等)を配布。業務で活用できる便利な保存資料に。

## ▼受講料 無料

## ▼申込方法

受講を希望する市区町村と東京都障害者IT地域支援センターとで、研修日時、場所、受講コース、受講者等を事前に電話調整の上、[別紙「令和元年度障害者のIT支援者養成研修\(出張型\)受講申込書」](#)をFAXにより申し込む。

施設のスタッフ様など地域支援者の方が受講希望されるケースは、まず区市町村の障害福祉課にご連絡下さい。  
東京都障害者IT地域支援センターとの窓口は、所在地の区市町村の障害福祉課となります。  
ご不明の際は、下記の問い合わせ先にご相談下さい。

## (申込先及び問い合わせ先)

東京都障害者IT地域支援センター

【所在地】〒112-0006 文京区小日向4-1-6

東京都社会福祉保健医療研修センター1階

【電話】03-6682-6308

【FAX】03-6686-1277

[戻る](#)

Copyright (C) 2004 Tokyo ITC All rights reserved.